

大きな過ちを犯した魂でも、自分をむしばんでいる問題を解決することができません。間違った行いへの償いと正しい行いから得られる報いはカルマの法則から生じてきます。他人に害を及ぼした者は、カルマの公正さのサイクルのなかで、将来の生で自分自身が犠牲者になることによって罪の償いをするようになります。何千年もの試練を受けてきたもう一つの古代の東洋の教典、バガバッド・ギーターのなかに、「邪悪な影響を及ぼす魂は自身の美徳を回復しなければならぬ」という一節があります。

魂にとって「カルマ」は、因果律や正義と同じような意味なのかどうかという点をはっきりさせないかぎり、死後の生の研究は有意義なものになりえないでしょう。カルマそのものが善行や悪行を意味するものではありません。それはむしろ人生における肯定的または否定的な行為の結果を意味するのです。「人生に偶然はない」とよく言われますが、これはカルマそのものがなにかをするという意味ではありません。それはレッスンを授けようとして私たちをあと押ししているだけです。私たちの未来の運命は、逃れることができない過去から影響を受けています。とりわけ他人を傷つけたときには……。

成長への鍵は、「私たちはすでにその能力を授けられている」と理解することにあります——私たちは人生で道を外れないよう

に進路を修正することができずし、自分の行いが自分のためにならなければ必要に応じて変化を起こす勇気をもてばいいのです。怖れを克服しリスクを負うことで、私たちのカルマのパターンは新たな選択の結果に応じたものとなっていきます。それぞれの人生の終わりまで、私たちの魂を喰らおうと怪物が待ちかまえているわけではなく、私たち自身が教師のガイドの前で自分に対するもっとも厳しい批評家となるのです。カルマが慈悲深く、しかも公正であるのはそのためなのです。自分の霊的なカウンセラー（ガイド）や同じレベルの者たちの助けによって、私たちは曇りなく公正な目で自分自身の行いに判断を下すのです。

死後の世界が教える「人生はなんのためにあるのか」

Michael Newton (株)ヴォイス